

最近の管内経済概況

(2022年1月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、
持ち直しの動きが弱まっている** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、持ち直しの兆しがみられる。
- 個人消費は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 観光は、弱い動きがみられる。
- 公共工事は、増加している。
- 住宅建設は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも増加している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2022年3月14日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

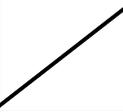
T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2022年3月現在)

発表月	2021年10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	前月との判断比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている	
生産活動	緩やかに持ち直している	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	持ち直しの兆しがみられる	
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
観光	低迷している	低迷している	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	弱い動きがみられる	
公共工事	減少している	減少している	減少している	減少している	減少している	増加している	
住宅建設	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	件数は増加、負債総額は減少している	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも増加している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

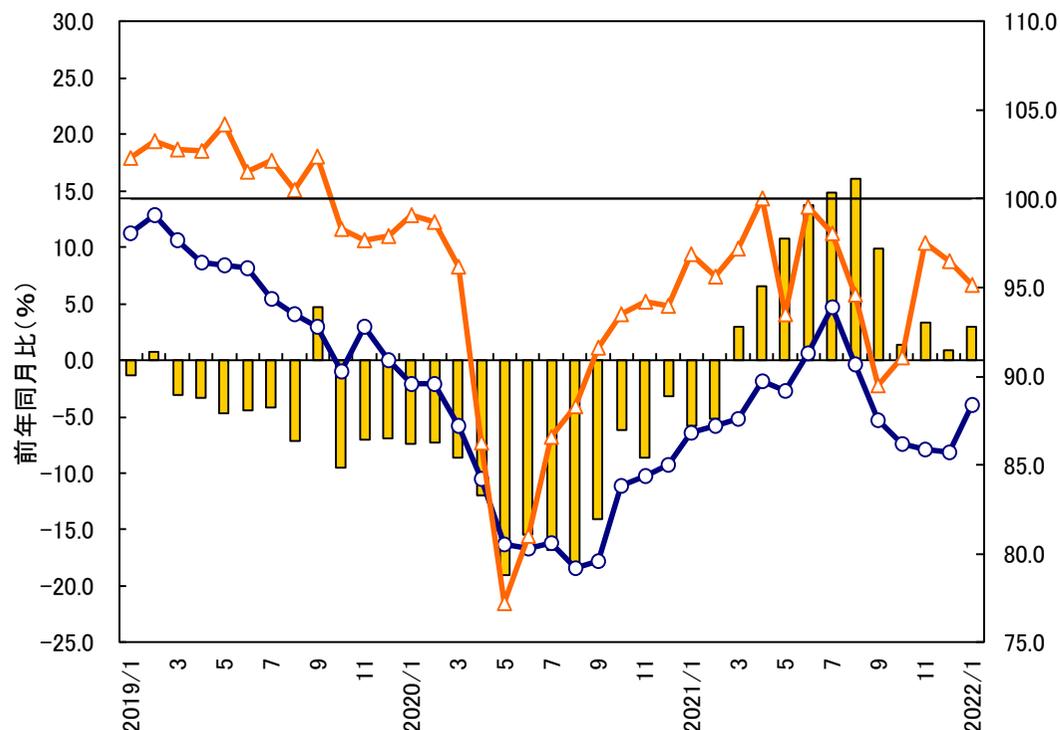
 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 持ち直しの兆しがみられる ～

1月の鉱工業生産は、前月比+3.2%と6か月ぶりに上昇した。前年同月比は+3.0%と11か月連続で上昇した。上昇業種は、化学・石油石炭製品工業など11業種となった。低下業種は、輸送機械工業など3業種となった。

<1月> 季節調整済指数	
北海道（速報）	88.4（前月比+ 3.2%）
全国（速報）	95.2（前月比▲ 1.3%）

鉱工業生産指数（2015年=100.0）



■ 前年同月比(原指数) ● 指数(北海道)季調済 ▲ 指数(全国)季調済

【ヒアリング内容】

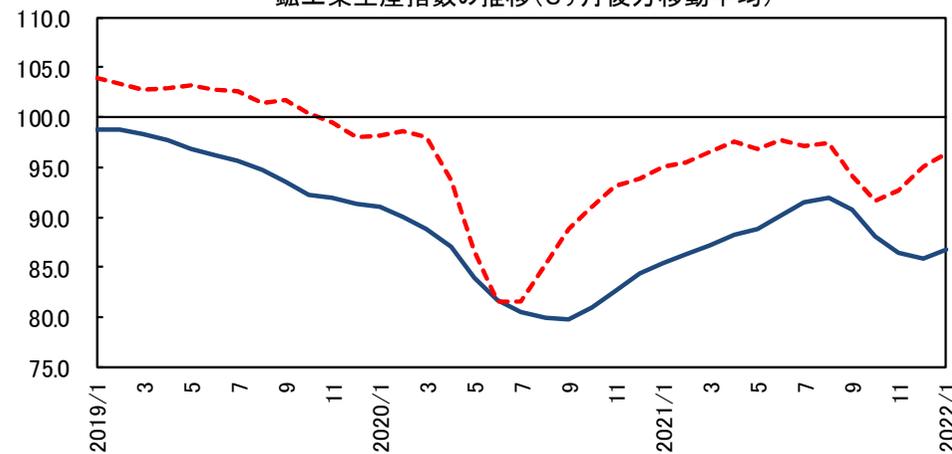
○上昇業種

- ・海外からの受注があったことから、化学・石油石炭製品の生産が増加した。（化学・石油石炭製品工業）
- ・受注が増加したことから、板紙の生産が増加した。なお、原料となる古紙も順調に集まっている。（パルプ・紙・紙加工品工業）
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による巣ごもり需要向けの受注があったことから、塩蔵品の生産が増加した。（食料品工業）

○低下業種

- ・国内での感染症拡大による部品供給不足により、工場の稼働停止が発生したことから、自動車部品の生産が減少した。2月以降も半導体不足などの影響が続いている。（輸送機械工業）

鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)



— 指数(北海道)季調済 - - - 指数(全国)季調済

（資料：経済産業省、北海道経済産業局）

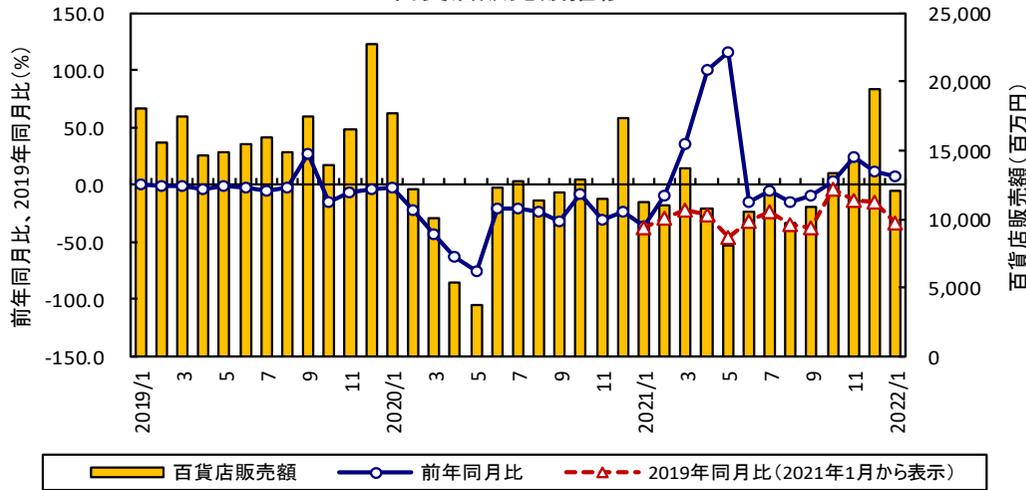
個人消費 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

1月の個人消費は、百貨店、コンビニエンスストアは前年を上回り、他の5業態は前年を下回った。

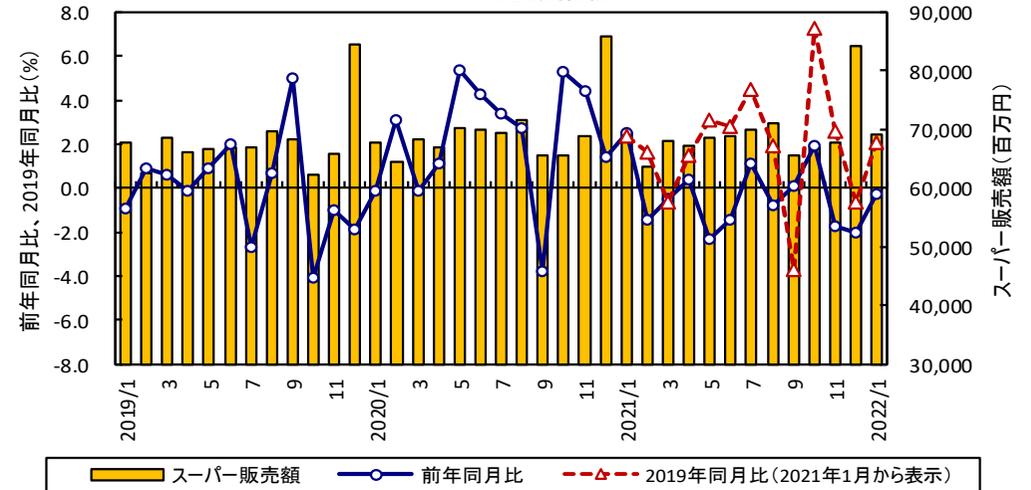
※2019年同月比は、北海道経済産業局「北海道百貨店・スーパー販売動向」掲載の販売額などから算出。

- 百貨店は、前年より客足が良く、全体的に売上が好調だったことから、前年同月比+7.0%（2019年同月比▲33.5%）と4か月連続で前年を上回った。
- スーパーは、衣料品などの売上が不調だったことから、同▲0.3%（同+2.1%）と3か月連続で前年を下回った。
- コンビニエンスストアは、同+3.8%（同+1.5%）と3か月連続で前年を上回った。

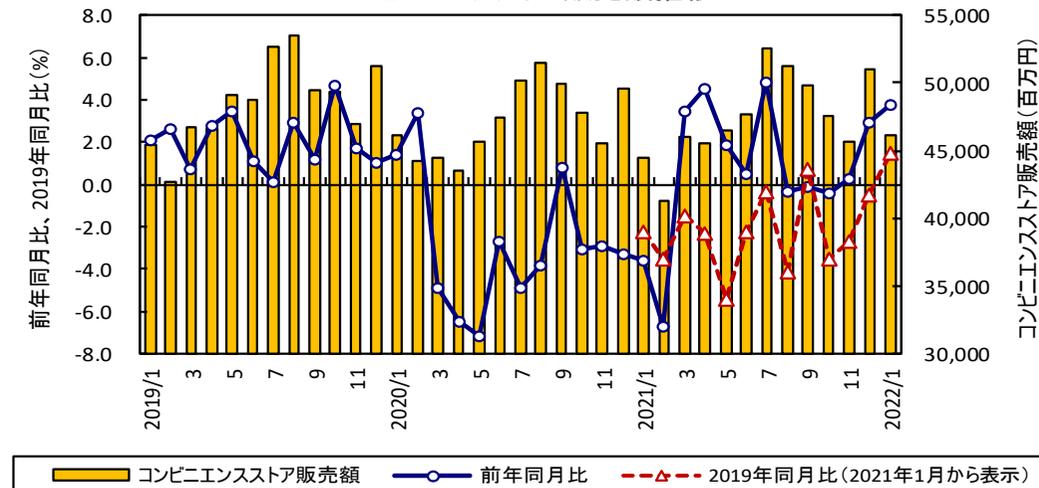
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移



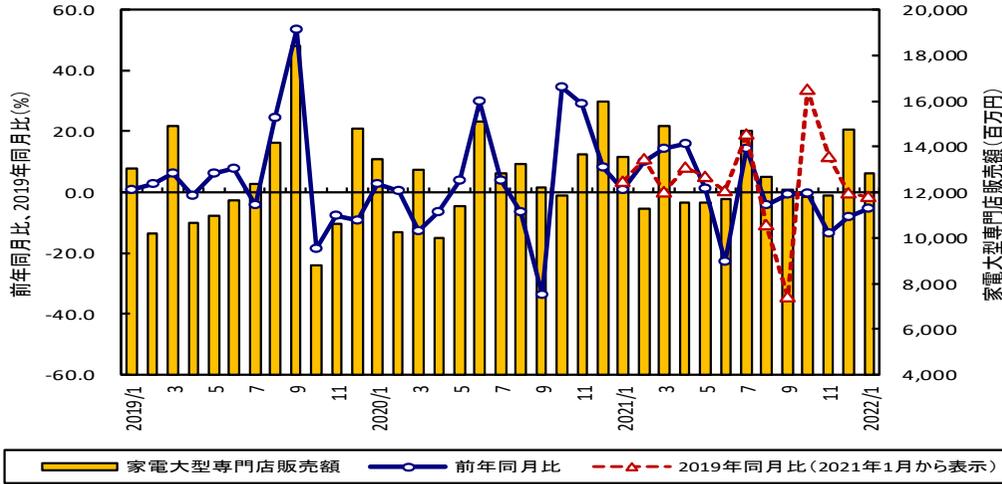
※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

【ヒアリング内容】

- 初売は好調で、月全体の売上は前年を上回った。一方で、中旬以降の記録的な暴風雪のほか、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響したため、売上、客数ともに後半にかけて減少した。（百貨店）
- 中旬以降の記録的な暴風雪と感染症の拡大の影響で、客数は減少したものの、まとめ買いの傾向がみられるようになった。衣料品は冬物が苦戦し不調だった。（スーパー）
- 中旬以降の記録的な暴風雪の影響で、近場で買物を済ませる動きがみられたことに加え、感染症拡大に伴う内食需要もあり、住宅街店舗の売上が好調だった。観光地店舗は、どうみん割が実施されていたこともあり、売上が前年を上回った。（コンビニエンスストア）

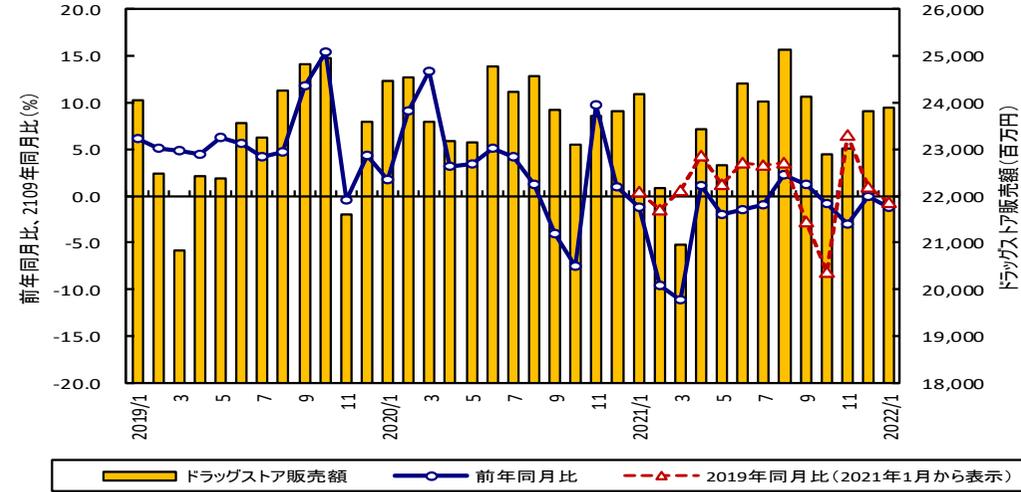
- 家電販売は、同▲5.2%（同▲1.6%）と6か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同▲1.2%（同▲0.7%）と2か月ぶりに前年を下回った。ホームセンターは、同▲1.2%（同+9.3%）と2か月ぶりに前年を下回った。
- 新車販売は、同▲8.3%（同▲15.0%）と7か月連続で前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



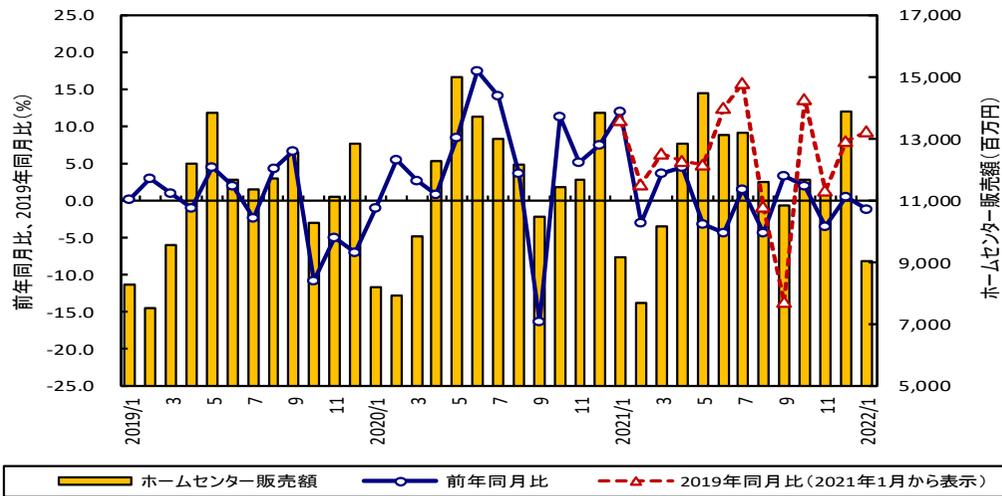
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



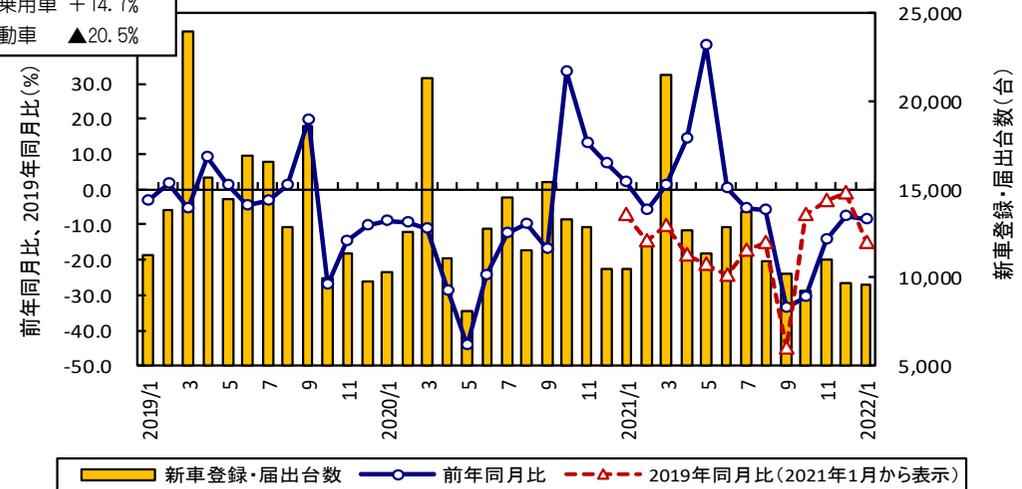
(資料：北海道経済産業局)

ホームセンター販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

新車登録・届出台数推移



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

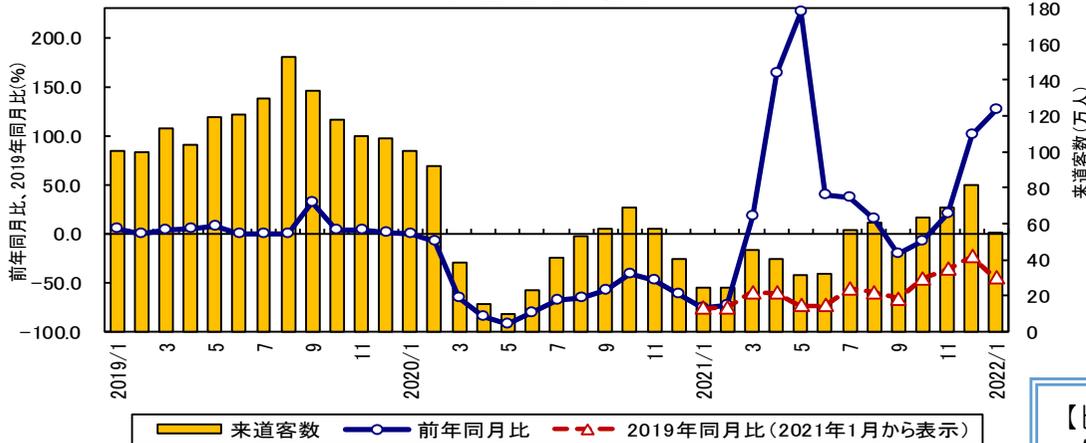
【ヒアリング内容】

- 年初の大雪や中旬以降の記録的な暴風雪の影響で、道路状況が悪化したことから客足が鈍り、売上も前年を下回った。（家電大型専門店）
- 感染症の拡大により、マスクなど衛生用品の売上は良かったが、中旬以降の記録的な暴風雪の影響で客数が減少し、売上は前年を下回った。（ドラッグストア）
- 中旬以降の記録的な暴風雪の影響により、除雪用品の売上は好調だったが、道路状況の悪化により客数が減少し、売上は前年を下回った。（ホームセンター）

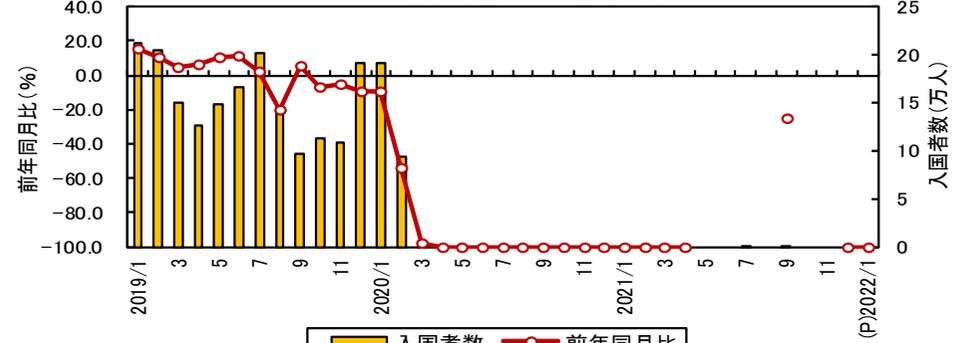
観光 ～ 弱い動きがみられる ～

1月の来道客数は、前年同月比+126.8%（2019年同月比▲45.4%）と3か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、0人であった。

来道客数推移



道内外国人入国者数



(資料：法務省)

注(P)は速報値

<1月> 来道客数 547,892人 (+126.8%)
 ※北海道外から航空機(国内線)、JR(北海道新幹線)、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

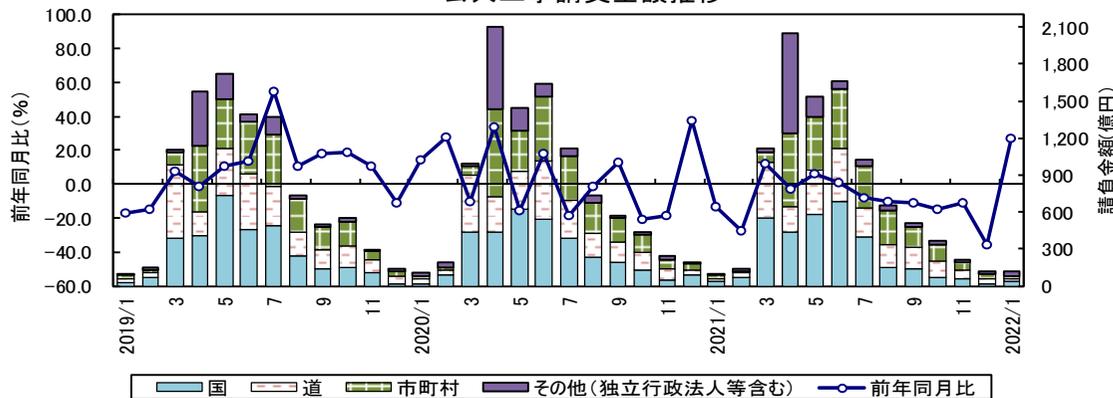
【ヒアリング内容】

- ・年始は比較的好調だったが、1月中旬から下旬にかけて観光客が減少した。週末には地元の日帰り客の姿が見られたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い道外客のキャンセルが相次いだ。2月は、花火大会が開催されたこともあり、極端な落ち込みはなかったと思われるが、依然として厳しい状況である。(関係機関)

公共工事 ～ 増加している ～

1月の公共工事請負金額は、国、道、市町村ともに前年を下回ったものの、独立行政法人等が前年を上回り、前年同月比+26.9%と7か月ぶりに前年を上回った。

公共工事請負金額推移



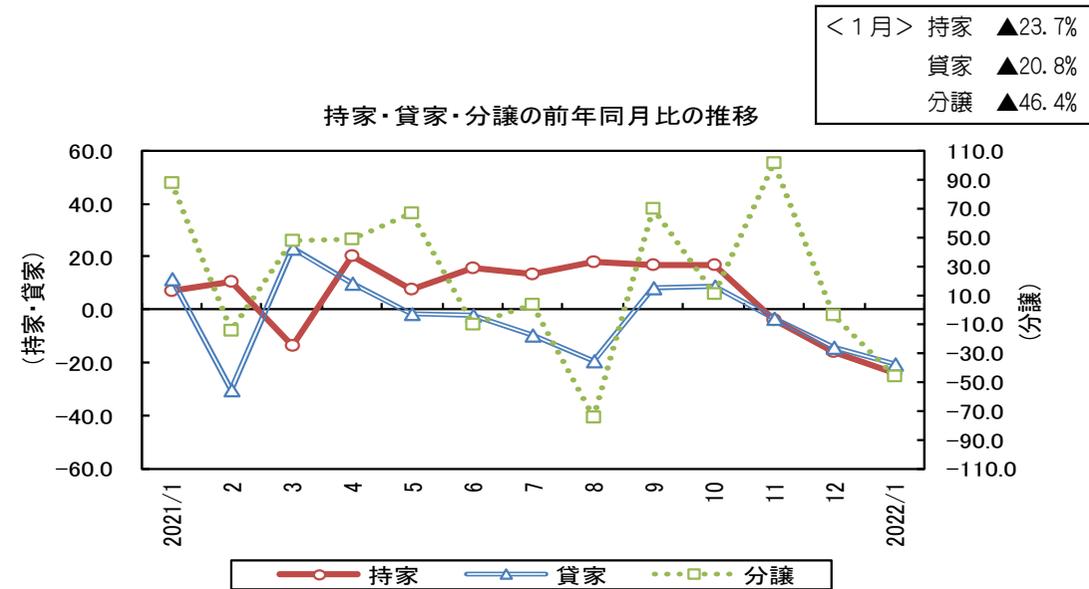
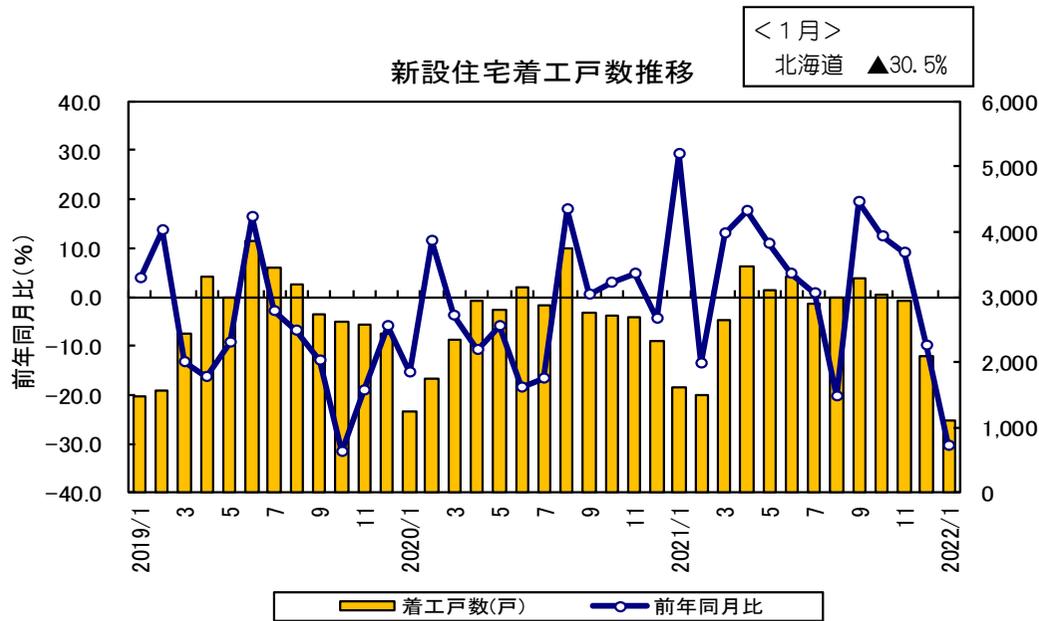
<1月>
 北海道 +26.9%
 (内訳)
 国 ▲10.9% 道 ▲4.7% 市町村 ▲11.2% その他 +390.2%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲の全てで前年を下回り、前年同月比▲30.5%と2か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2021年度の設備投資計画は、全体で前年度比+6.9%と2年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2021年12月13日発表

	2020年度	2021年度
北海道	▲ 19.9%	+ 6.9%
製造業	▲ 4.0%	▲ 21.7%
非製造業	▲ 27.5%	+ 25.1%
全国	▲ 8.5%	+ 7.9%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2021年12月9日発表

	2020年度	2021年度
全産業	▲ 8.6%	+ 14.1%
製造業	▲ 17.7%	▲ 24.8%
非製造業	▲ 2.9%	+ 33.8%

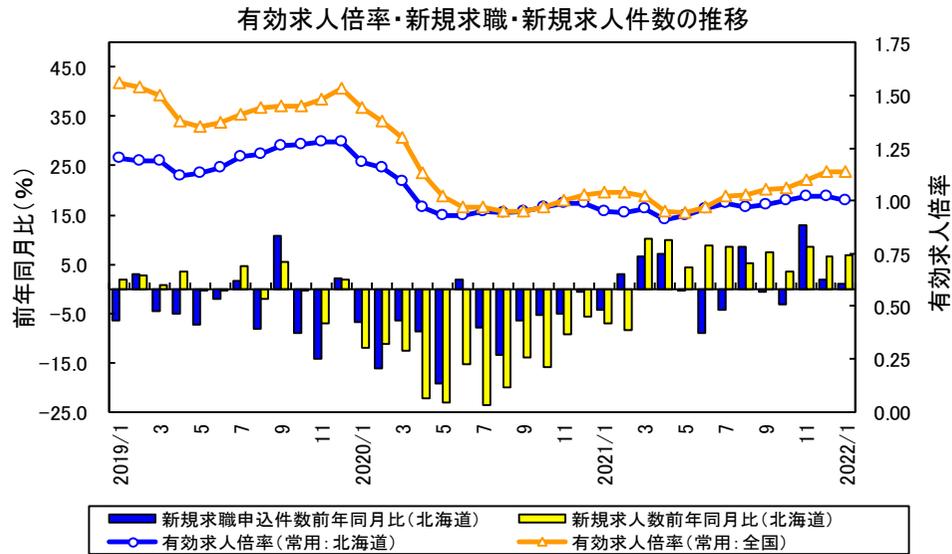
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

1月の有効求人倍率は、1.00倍と前年同月差0.05ポイント上昇し、8か月連続で前年を上回った。

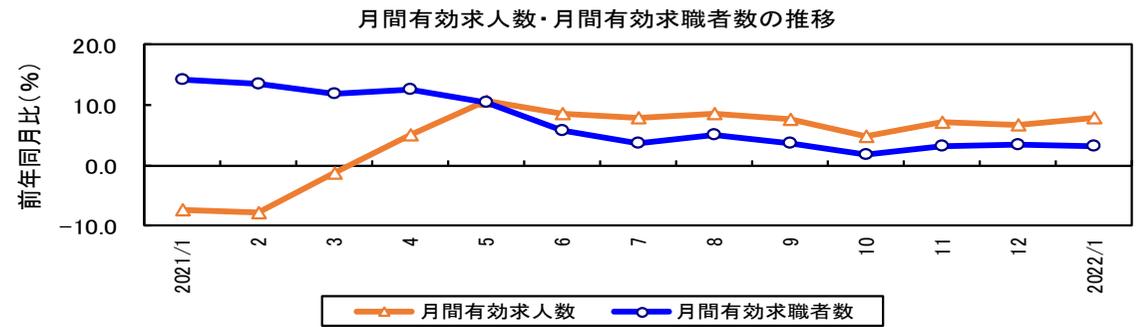


< 1月 >

北海道	有効求人倍率(常用)	1.00倍
	新規求人数(前年同月比)	+ 6.9%
	新規求職申込件数(前年同月比)	+ 0.9%
全国	有効求人倍率(常用)	1.14倍

< 1月 >

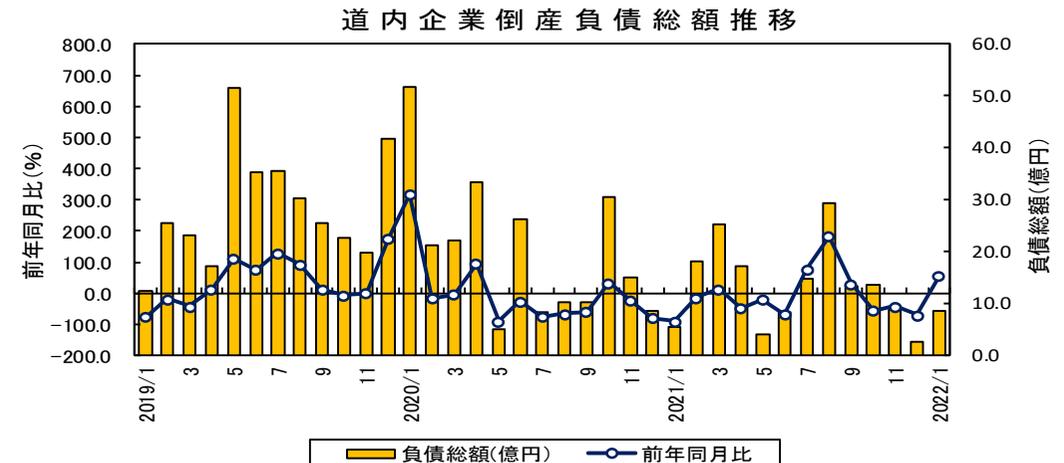
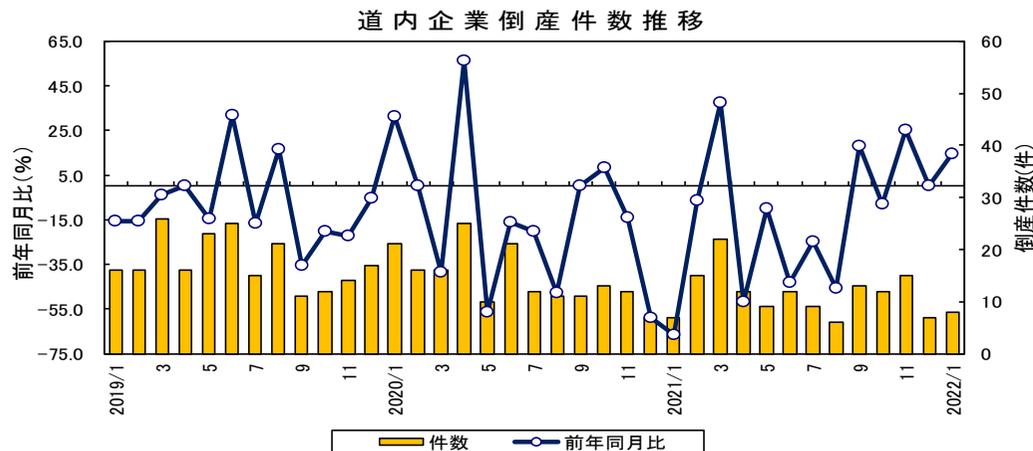
月間有効求人数	(前年同月比)	+ 7.9%
月間有効求職者数	(前年同月比)	+ 3.3%



(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも増加している ～

1月の倒産件数は8件で、前年同月比+14.3% (1件増) と2か月ぶりに前年を上回った。また、負債総額は8.6億円で、同+54.8%と4か月ぶりに前年を上回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)